

## 垣内遺跡とは

垣内遺跡は淡路市黒谷五斗長（ごっさ）地区にあり、平成13年度～16年度に淡路市教育委員会が分布調査で発見しました。農業生産法人等育成緊急整備事業（ほ場整備）に伴い、平成19・20年度に淡路市教育委員会が17,844㎡の発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、弥生時代後期（1世紀半ば～3世紀初め）の建物跡が23棟見つかっています。うち11棟の竪穴建物では、床面で強い熱を受けて赤く焼けた「炉跡」が認められ、鉄鏝をはじめとする鉄製品、素材となる鉄片、鑿（たがね）で裁断された鉄細片が出土しています。

また、石鎚、鉄床石（かなとこいし）、砥石など鉄器づくりに使ったと思われる石製工具も数多く出土しており、これら11棟の竪穴建物は鉄器生産を行った弥生時代の鍛冶工房と考えられます。

垣内遺跡は弥生時代後期では国内最大級の鉄器生産集落で、学術的にも当時の鉄器生産や流通を考える上で貴重な遺跡です。

## 垣内遺跡の保護と活用

地域住民のご協力によって、垣内遺跡は現地で保存されることとなり、淡路市では国指定史跡を目指した取り組みを進めています。

また、淡路市教育委員会は地元住民とともに遺跡を地域の新しいシンボルとする「先行ソフト事業」を実施し、県教育委員会も積極的に支援を行っています。

また、垣内遺跡の実像をさらに詳しく検討するため、県立考古博物館・学識者・淡路市教育委員会で調査研究プロジェクトを組織し、調査成果の多面的な検討を実施しています。

## 垣内遺跡の位置



## 鉄器製作実験風景

